

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	高齢者の尊厳と自立を守るという企業理念のもと、いかなる場合も入居者様第一主義を守っている。	○	社は「誠意・誇り・情熱」を実行するよう取り組んでいきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼により共有している。月1回のホーム会議でスタッフ全員の共有、実践している。	○	理念である、人格の尊重、自立支援、尊厳を守るという事を元に入居者、家族様の希望を取り入れ、その人らしく生活できるようなプランの作成、及びスタッフ共有をしている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	2ヶ月に1度の運営推進会議時にホーム内の状況等を報告し、地域の方のアドバイスを頂いたり、地域の行事等にも参加させて貰っている。	○	現在、運営推進会議で家族代表で1名の方に参加して頂いているが、家族全員が参加できるように、交代で会議に参加できるようにしたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎朝、お客様と一緒に散歩に出かけたり、買い物に出かけた時には、ご近所の方やスーパーの方には、必ず挨拶をしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの行事等には、地域の方やボランティアの方に参加して頂き、また、福祉祭りや盆踊りと地域にも参加させて頂いている。	○	今後は地域の一員として、自治会や老人会にもお客様と一緒に参加できるような、人員等の体制を整えていきたい。

ニチイのほほえみ(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>高齢者介護及び認知症対応等の専門分野を生かし、地域で困られている家族様等の相談窓口となり、気軽に声をかけてもらえるように、町会長様に声かけしている。</p>	○	<p>左記の相談窓口が、もっと周知してもらえるよう、勉強会の開催などで、活用していただけるように、努力したい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>具体的にご指導頂いたことを実践し、取り入れ、お客様がより快適に安心して暮らして頂けるように、努力している。</p>	○	<p>日常生活の中で、なかなか気付かない点などを指導して頂けるので、とても改善に取り組みやすい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に一回の運営推進会議で、評価、助言等を頂き、今後の取り組みや質の向上が図れるようにしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターの方と、連携を図り、質の向上に向けて、指導、相談を受けている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>青年後見人制度は入居者様に重要な問題であるので、管理者が学び、職員に周知できるよう、努力している。また、行政の指導を仰ぎながら、支援している。</p>	○	<p>権利擁護の研修等に積極的に参加できるようにし、知識を高めていきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>月1回のホーム会議で、テキストの読み合わせを行い、虐待0を心がけている。また、見過ごす事のないように、毎朝、お客様に対して、目視している。</p>	○	

ニチイのほほえみ(そよかせ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時には契約書の読み合わせを行い、疑問点には、理解して頂けるまで、十分な説明を行っている。</p>	<p>○</p> <p>緊急でご入居される方が多い為、殆どが入居日に契約となっている為、出来るだけ入居日までに、十分な説明ができるように、契約をするように努力したい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>お客様からは気軽に意見、不満、苦情を言っていただけるような信頼関係を構築させて、それらを職員全員で共有し、解決、改善が出来るように、ホーム会議、朝礼時等に話し合いをしている。</p>	<p>○</p> <p>日々起こりうるお客様同士の争いや、不穏な状況になった時には、事前に対策している事柄や、その都度ミニカンファレンスを行い、職員に徹底周知できるように、申し送りノートにて、記載している。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、請求書・領収書と共に、ほほえみ便りで、お客様のご様子や行事の案内をしている。(写真同封もあり) また、面会時に個人のアルバムをご覧になって頂く。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関先に相談・苦情の窓口を表示している。また家族様が気軽に意見、苦情、不満を言って頂けるよう、信頼関係を構築し、実行している。</p>	<p>○</p> <p>苦情や不満等、直接話しにくい事もあると思うので、玄関先に、箱などを設置できるようにしたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月のホーム会議にて、職員の意見や提案を出し合っている。又、全員が運営に参加できるように、委員会を作っている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員の希望休を取り入れ、お客様や行事にも合わせたシフト作りをしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職時は、お客様を不安にさせないように、退職する事は絶対に話さないように、周知している。後々にお客様に聞かれた時には、事情を説明している。</p>	

ニチイのほほえみ(そよかぜ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>社内研修、外部研修の案内が来た時には、参加出来るように、シフトの調整をしている。ホーム内においても、ホーム会議や、随時、介護技術が向上するように、先輩スタッフや管理者が指導を行っている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同区のグループホーム連絡会に入会し、月1回の交流、勉強会に参加し、サービスの質の向上に向けて努力している。 (管理者)</p>	<p>○ 今後は職員も参加できるような体制にしたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の悩みや要求に対して、解決できるように、管理者や社内の上司と個別面談を行えるように、機会を設けている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員が向上心をもって働けるように、責任のある、委員会等の役割をもってもらい取り組んでいる。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご相談を受けてから、必要に応じて何度も訪問し、馴染みの関係を築くようにしている。入居当初は、環境の変化で、不安になるので、ご本人とゆっくり話しが出来るようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>内覧時にご相談が多く、殆どの家族様が、介護疲れの為に早急に入居できるようにと、要望がある。それに伴い、早期にご入居して頂けるように、ご本人と面談を行い、対応している。</p>	<p>○ 早期にご入居して頂けるように対応している為、ご本人の家族関係や過去のアセスメントが十分に出来ない。今後はもっと時間をかけて、ご入居されてからは困る事がないようにしたい。</p>

ニチイのほほえみ(そよかせ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人との面談や、ご家族からの情報を収集し、求めているものを見極め、安心して生活して頂けるよう配慮している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心して生活できるように、他のお客様とコミュニケーションが図れるように、スタッフが仲介し、判らない事が発生した時には、随時、ご家族に連絡し、相談、助言を受けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お客様も職員も、共同生活していく場として、共に支えあって暮らしている。	○	家族様からも共同生活をしているという、協力を頂けるように努力したい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の日々の状況をお知らせし、生活の安定、充実の為に情報共有し、共に支えていると実感して頂いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は家族関係の情報を理解し、良い関係が保てるよう日々、努力している。ご本人にとって、家族が一番の存在だということを、お互いに言葉で伝え、良い関係が築けるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等の訪問により、支援している。	○	身元引受人様の了解を得ないと、他の面会者の外出・外泊は禁止となっている為、その対応に苦戦している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お客様を孤立させない為にも、職員が仲介に入り、お客様同士で会話が出来たり、馴染みの関係が築けるように、支援している。		

ニチイのほほえみ(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も、こちらから訪問に行ったり、ホームの行事への参加ご案内をする場合がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方を尊重し、安心して生活できるように支援を検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式に取り組み、職員一同で一人ひとりの生活歴、取り巻く環境を把握するように努力している。	○	ご家族からの情報・ご協力がもっと必要となる為、時間がかかっている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人らしい暮らし、その有する能力に応じた自立支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人本位を基準として、ご家族の意向も取り入れ、それぞれが役割をもって家庭的な環境のもと、生活できるよう、関わる人達で話し合い、ケアプランを作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月に1回、変化が起きた時や、介護度の変更があった場合は都度、ケアカンファレンスを開催し、現状に踏まえた新しいケアプランを作成、実行している。		

ニチイのほほえみ(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活を介護記録に記入、また1日2回のバイタルチェックで、健康管理も行っている。記録は職員をはじめ、医師、ご家族にも共有して見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方からの家族様の面会や、入居当初のご本人の不安を取り除く為にも、各階の和室を利用して宿泊して頂けるようにしている。家族様の食事については、予約されていれば、いつでも提供できる。	○	食材は食材配達で行っている為、最低でも3~4日前には追加注文をしないとイケない為、不便がある。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて、各公共機関、地域ボランティアの協力を依頼している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人、ご家族の意向に応じて、訪問歯科、訪問マッサージ、介護タクシー、福祉用具などを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議、又、必要に応じて、相談、指導を仰いでいる。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1/2週の往診、又必要に応じて相談、緊急時の対応と24時間体制で医療が受けられるように支援している。	○	現在、医療連携体制加算について休止中の為、今後のあり方について、検討中。

ニチイのほほえみ(そよかぜ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	医療連携体制加算検討中
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	職員の医療の知識を高める為、今後は勉強会にも参加できるようにしたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	今後、ケース発生時は本人にとって、最良の日々を送って頂けるよう知識向上に向け取り組んでいきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	

ニチイのほほえみ(そよかせ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	敬語での声かけを基本とし、丁寧な対応をするよう取り組んでいるが、アルツハイマー型認知症の一部のお客様には、幼少の頃の記憶となっている為、呼び方にも親しみを感じられるように、姓名の名で呼ぶ場合がある。	○ 職員には統一した対応が出来るように、今後も十分に注意を払いたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	朝の起床時から就寝時まで自己決定を基本としている。また、自分で表現できるように、職員から声かけをし、意思表示できるように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居されるまでの、その人の暮らしや環境が違うので、朝食だけは、起床された方から、食事を提供している。出来るだけ、希望に沿えるように、支援している。	○ 職員の人員配置の事もあるので、現状は業務のタイムスケジュールに沿ってケアを行っているが、今後は、お客様のペースに充分に対応できるように、人員の確保をしていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	お客様の希望や意思確認によって、身だしなみやおしゃれが出来るように、支援している。ホームでは訪問理美容を利用しているが、髪型や毛染め、髭剃り等は、ご本人の希望が言えるようにしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、食器洗い、食器拭き等は職員とお客様と一緒にやっている。また、月に1度は外食したいのですが、現状は困難な為、好きな物の出前をして貰い、楽しんで頂いている。	○ 今後は、お客様全員で外食が出来るように、人員の確保をしたい。又、出張板前さんやコックさんにホームへ来て頂き、ホームの中で外食の気分を味わえるような雰囲気を作るなどして、取り組んでいきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現状は、お酒、たばこは望まれる方がいないので、行っていない。おやつについては、ホームで準備した物を提供している。	○ おやつを提供をするにあたって、今後は月に1~2回、お菓子屋さんにホームに来て頂き、お客様の好きな物を選んで購入して頂けるように依頼済み。楽しみを見出せるようにしたいので、方法については検討中。

ニチイのほほえみ(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中は個人の排泄パターンに合わせ、トイレ誘導を行っている。また、羞恥心もあるので、プライバシーに配慮した誘導が出来るように、職員には周知徹底している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現状は、職員の都合もあり、14時頃から17時頃の間に入浴して頂いている。汚染等が発生した場合は、随時シャワー浴も行っている。また、毎日、入浴剤を変えて色や香りを楽しんで頂くようにしている。	○	職員の人員不足が解消次第、毎日、いつでも入浴して頂けるように支援したい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	出来るだけ、眠剤等の服薬はしないで、日中の活動を活発にしたりして、睡眠パターンを知り、夜間は眠って頂けるように、支援している。2日に1回の睡眠パターンのお客様もいるので、その人のパターンに合わせている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の生活歴や力が発揮できるように、掃除、洗濯、料理、接客対応、買い物、片付け、趣味等も含め、役割をもって頂いている。また、毎日、散歩に出掛けたり、庭に出て、外気にあたるように、支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っていないと落ち着かないお客様に対しては、少額のお金を所持して貰っているが、ホームでは立替金制度を実施しているので、現金は不必要となっている。	○	今後はホームに、お菓子屋さん等に来て頂き、自分でお金を支払う場面を作っていけるよう、検討中。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、毎日散歩や買い物に出掛けている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春の遠足、花見、盆踊り、大型スーパー等への外出をしている。個別でも対応できるような、機会を作っている。	○	時間が許す限りは、ご家族との協力も得て、お客様同士とご家族の交流が図れるように、取り組んで行く。

ニチイのほほえみ(そよかせ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じて、随時、電話や手紙のやり取りが出来るように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限は特に決めておらず、居室やリビング、和室で過ごして頂いている。行事等でボランティアの方が来られた際には、お客様と一緒に、食事が出来るように、顔馴染みを作るように、工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないように、職員全員に周知徹底している。拘束が必要になった場合は、ご家族に必ず、書面にて同意を頂くようにしている。	○	今後も身体拘束ゼロを目指す。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵やユニットの扉を開けている。徘徊のある人の対応として、扉入り口に音の鳴るのれんを吊ったり、センサーの音に反応し、対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常にお客様の所在を把握し、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	調理時に包丁を使用できる方もいるので、職員が必ず、見守りを行い、一人ひとりに合った方法で取り組みをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒や外部徘徊など、一人ひとりに考えられるリスクを想定し、事前に防止できるように取り組んでいる。	○	消防署より、年2回の防災訓練や、救命講習を実施し、非常事態時に対応できるように、取り組んでいる。

ニチイのほほえみ(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署から来て頂き、救命講習、防災・非難訓練を定期的に行っている。	○	今後も継続して取り組む。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム会議、朝礼時等で定期的に避難場所を、職員全員が周知できているか、確認している。また、避難場所の学校にも、日ごろから、協力を頂いている。	○	避難場所である学校にて、定期的に、ふれあい喫茶が開かれるので、月に1度は参加させていただき、職員が上手くお客様を守る為の誘導が出来ているか、チェックできている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に考えられるリスクの説明を行っている。入居後も定期的に現在の状態と、考えられるリスクを報告し、ご家族の理解を得られるよう、努めている。	○	行事等のご家族にも参加をお願いし、お客様の状態や状況を観て頂ける機会を増やすように、努力している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日2回のバイタルチェックと、排泄・食事・水分摂取量を記録し、異常がないか、日々、生活状況を観察している。又、体調に変化があった場合は往診医に連絡をとり、指示を仰ぎ、必要に応じて、受診、往診で対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書に副作用や用量等が記載されているので、個人別にファイリングしている。また、薬局より、個人別に分包された薬を朝・昼・夕と薬剤庫のカセットに1週間分セットして貰っている。薬剤師に相談もできるよう、連絡体制も整えている。	○	服薬時は、職員が必ず、日付、氏名等の確認を徹底し、誤薬ミスのないように注意を払っている。万が一、誤薬ミスが出た場合は、直ちにドクター、薬剤師に連絡をするように、徹底している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘傾向のお客様に対して、出来るだけ、食物や水分、運動で自然排泄が出来るような工夫をしているが、頑固な便秘の片も入居されているので、屯用として、下剤を準備している。	○	出来るだけ便秘薬に頼ることのない様な工夫を模索中。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの誘導をし、生活習慣となるように支援している。必要に応じて、訪問歯科にて口腔ケアを依頼している。		

ニチイのほほえみ(そよかせ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量・水分摂取量を記録し、夜勤者が一日の総合チェックを記録し、朝礼時や申し送りノートを活用し、職員全員が把握して、翌日も継続した支援ができるように取り組んでいる。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルに沿った、消毒方法とその使用方法を徹底している。また、出勤時には手洗い、うがいの徹底をし、感染予防に努めている。	○	感染症が発生した場合に限らず、普段から習慣として、行えるように努力したい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルに沿って調理器具の消毒、調理者の衛生管理を徹底している。食材については、毎日、業者からの配達と、職員やお客様と買い物に行く時は、新鮮な物を購入するように努めている。	○	定期的に冷蔵庫の整理、管理を行い、チェックしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	毎日、玄関から周囲の掃除をしている。	○	近隣の方にも、立ち寄って頂けるような、家庭的な雰囲気もてるようなホームにする為、花等を植えるように、取り組みたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間には、観葉植物や花を飾り、廊下には、季節毎のお客様自身が作成した、貼り絵や塗り絵を飾っている。居心地よい室内の気温を保つ為、床暖房や空調機も使用し、お客様が落ち着いているときには、フロアでお茶の時間にして、スタッフも一緒に団欒するようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには和室もあるが、庭先にはベンチを設置し、自由に心地よく過ごす事が出来るようにしている。		

ニチイのほほえみ(そよかせ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ、馴染みの家具や飾り物を持参して頂けるようお願いしている。来客等の面会時には、足りない椅子等はホームの椅子やテーブルを提供している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常時24時間の換気を行っている。各居室やリビングの温度調節も適度な温度を保つように配慮している。冬季は加湿器を使用したり、濡れタオルを居室にかけたりして、湿度にも注意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの設計で建設されており、手すりのたくさん取り付けられている。独歩や、杖歩行が可能なお客様にとっては、早期に自立支援に向けて、生活が出来るようになっていく。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各トイレや風呂場にはわかるように、表示されており、居室入り口には手作りの表札がある。トイレ誘導の必要なお客様には、混乱を防ぐ為、同じトイレへ誘導するようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には菜園と花壇。テーブルセットを設置している。庭でバーベキューを楽しんだり、季節の野菜や花を植えたり、草抜きや落ち葉拾いを共にし、外でリハビリ体操を行う時もある。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

ニチイのほほえみ(そよかせ)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

運営推進会議を開催する毎に、包括支援センターの職員、民生委員、地域の方とのご協力を得る事が出来、これまでに、たくさんのボランティアの方達にホームで行事参加や、レクリエーションを行えるようになりました。又、地域に根付いていきたいという、私達の思いが伝わっている事に感謝致します。おかげ様で、地域の方達からも盆踊りや、福祉祭り、老人会へのお誘いもあります。今後も、もっとお客様が、その人らしく穏やかに地域に根付いた、生活をして暮らせるように支援して参りますので、今後ともご協力、ご指導の程、宜しく願い申し上げます。